

2024 年度版 交通事故の実態

2023 年度の事故発生状況
(2023.04 ~ 2024.03)



SHINKOKYO
神奈川県自動車交通共済協同組合

2024 年度版「交通事故の実態」の発刊にあたって

当組合は、交通事故の防止を最重要課題として取り組んでいます。

2023 年度は、交通事故防止重点項目として、「交差点事故の根絶」「追突事故の根絶」「構内事故の根絶」を掲げ、組合員のご理解とご協力のもと、コメントリー運転の実践を推進し、交通事故防止に向けた取り組みを行いましたが、対人事故では交通弱者との死亡事故が4件、また、高額賠償事案につながる後遺障害事故が増加、対物事故では構内における建造物損壊による高額賠償事案が発生し、収益に影響を及ぼす結果となりました。

ここに、2024 年度版「交通事故の実態」として、2023 年度の交通事故の発生状況を統計資料として公表いたします。

組合員の皆様におかれましては、一件でも交通事故を減少させるため、事業所の交通事故防止活動にご活用いただければ幸いに存じます。

2023 年度交通事故防止重点項目

- 交差点事故の根絶
- 追突事故の根絶
- 構内事故の根絶

データの分類は、各年度ごとに「全事故」や「共済種目別」に行っています。

- 「全事故」とは、各期間内に受け付けた事故件数
- 「共済種目別」とは、共済契約種目別に事故処理をした件数

「支払共済金」には、確定前の支払備金も含んでいます。

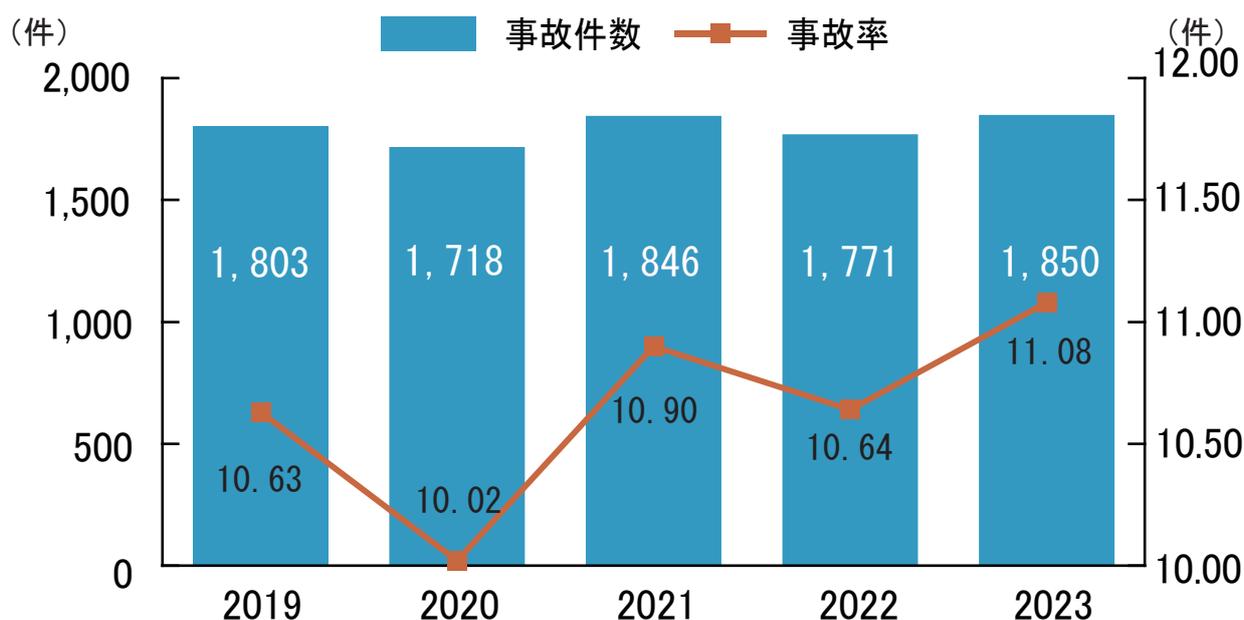
目次

1. 交通事故発生状況（全事故）.....1 頁	5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生状況.....16 頁
(1) 事故発生件数と事故率（2019～2023年度）	(1) 対人共済
(2) 月別事故発生件数（2023年度）	① 高額賠償事案（1,000万円以上）の事故発生状況
(3) 類型別事故発生件数（2023年度）	② 道路形状別の事故発生状況
(4) 道路形状別事故発生件数（2023年度）	③ 原因別の事故発生状況
(5) 発生時間帯別事故発生件数（2023年度）	④ 類型別の事故発生状況
(6) 運転者年齢層別事故発生件数（2023年度）	(2) 対物共済
(7) 原因別事故発生件数（2023年度）	① 高額賠償事案（200万円以上）の事故発生状況
2. 共済種目別事故発生状況.....5 頁	② 道路形状別の事故発生状況
(1) 共済種目別事故発生件数・事故率	③ 原因別の事故発生状況
(2) 対人共済被害者数（死亡・後遺障害・傷害）	④ 類型別の事故発生状況
(3) 対物共済類型別事故発生件数	6. 過去5年間における運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）.....20 頁
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況(2023年度).....6 頁	(1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況
(1) 交差点事故の実態	(2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況
① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）	(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況
② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）	7. 2023年度交通事故防止強化月の事故発生状況.....23 頁
③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金	(1) 月別事故発生件数
(2) 追突事故の実態	① 全事故
① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）	② 対人共済
② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金	③ 対物共済
(3) 構内事故の実態（対物共済）	8. 2023年度交通事故防止強化月の結果について.....24 頁
① 構内事故の類型別事故状況	(1) 重点項目別事故発生件数
② 構内事故の原因別事故状況	(2) 交通事故防止強化月ポスターの作成
③ 構内事故の支払共済金	9. 交協連傘下15組合の2023年度事故発生状況.....25 頁
(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）	(1) 事故発生状況（対人・対物事故）
① 交通弱者との道路形状別事故状況	(2) 原因別事故発生状況（対人事故）
② 交通弱者との原因別事故状況	(3) 類型別事故発生状況（対人事故）
③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金	(4) 運転者年齢層別事故発生状況（対人事故）
④ 交通弱者年齢層と事故発生場所	
⑤ 交通弱者被害者類型・態様別	
4. 過去5年間における発生事故に係る支払共済金.....15 頁	

1. 交通事故発生状況（全事故）

(1) 事故発生件数と事故率（2019～2023年度）

2023年度は、全事故件数、事故率ともに過去5か年度で最も多くなりました。
共済種目別事故発生件数では、すべての共済種目で前年度より増加となりました。



※事故率は、100両当りの1年間の事故発生割合（件数）を示します。

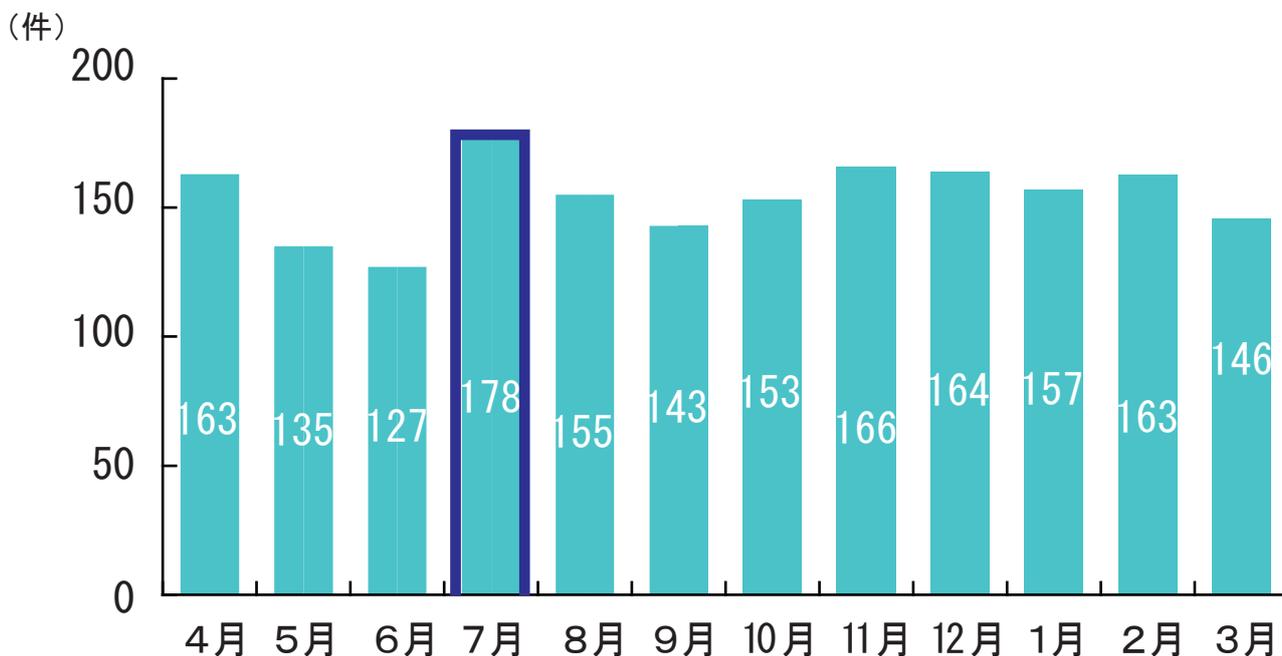
共済種目別事故発生件数

共済種目別	2019	2020	2021	2022	2023
対人	381	316	332	343	347
搭傷	5	6	0	1	3
対物	1,610	1,559	1,690	1,640	1,679
車両	112	102	113	111	124
合計	2,108	1,983	2,135	2,095	2,153
全事故件数	1,803	1,718	1,846	1,771	1,850

※全事故の発生件数は、1件の事故につき複数共済種目での受付を含んでいます。また、各年度の決算時の件数を示します。

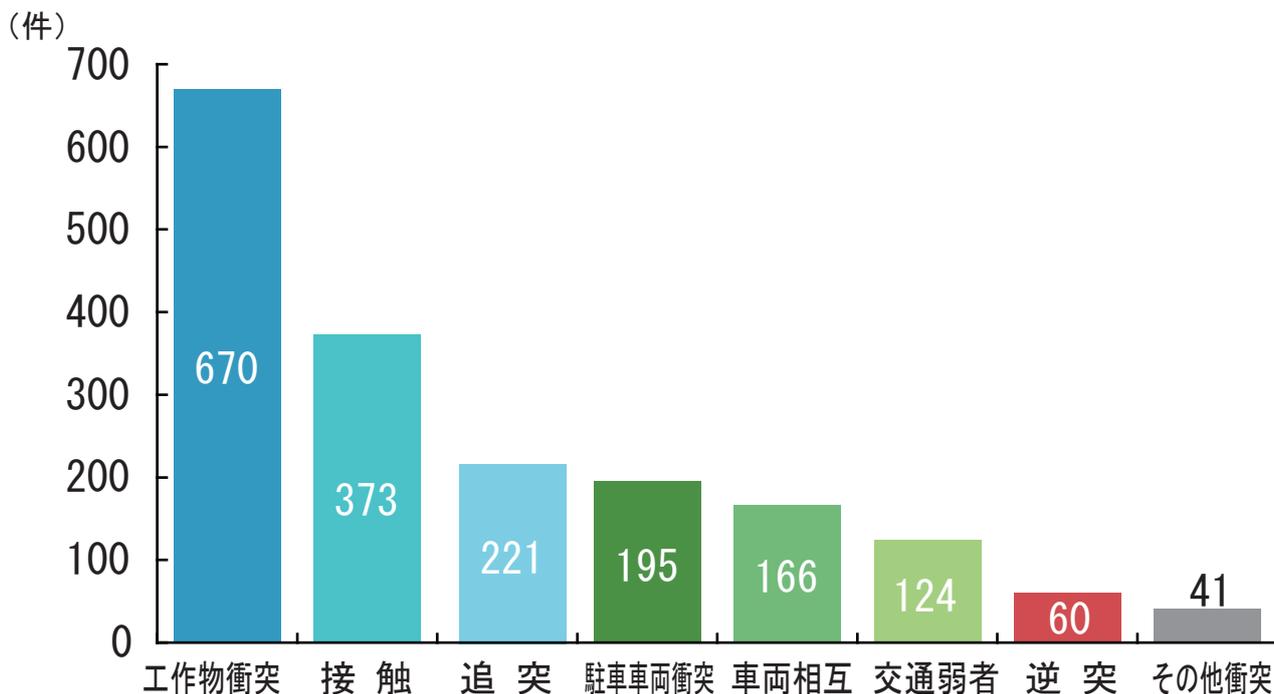
(2) 月別事故発生件数 (2023年度)

月別では、7月が最も多く178件で、前年度比9.9%(16件)増加しました。



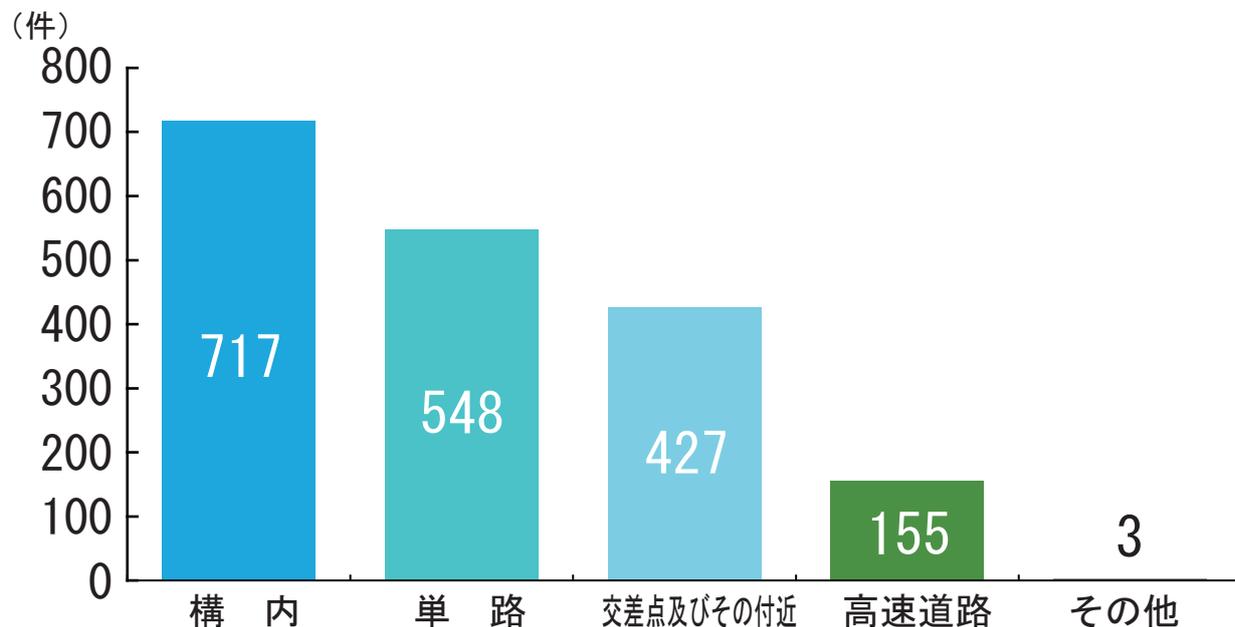
(3) 類型別事故発生件数 (2023年度)

類型別では、工作物への衝突が最も多く、前年度比18.0%(102件)増加し、全事故件数1,850件のうち36.2%(670件)となりました。交通弱者では、前年度比31.9%(30件)増加しました。交通事故防止重点項目で掲げている追突では、前年度比11.6%(29件)の減少となりました。



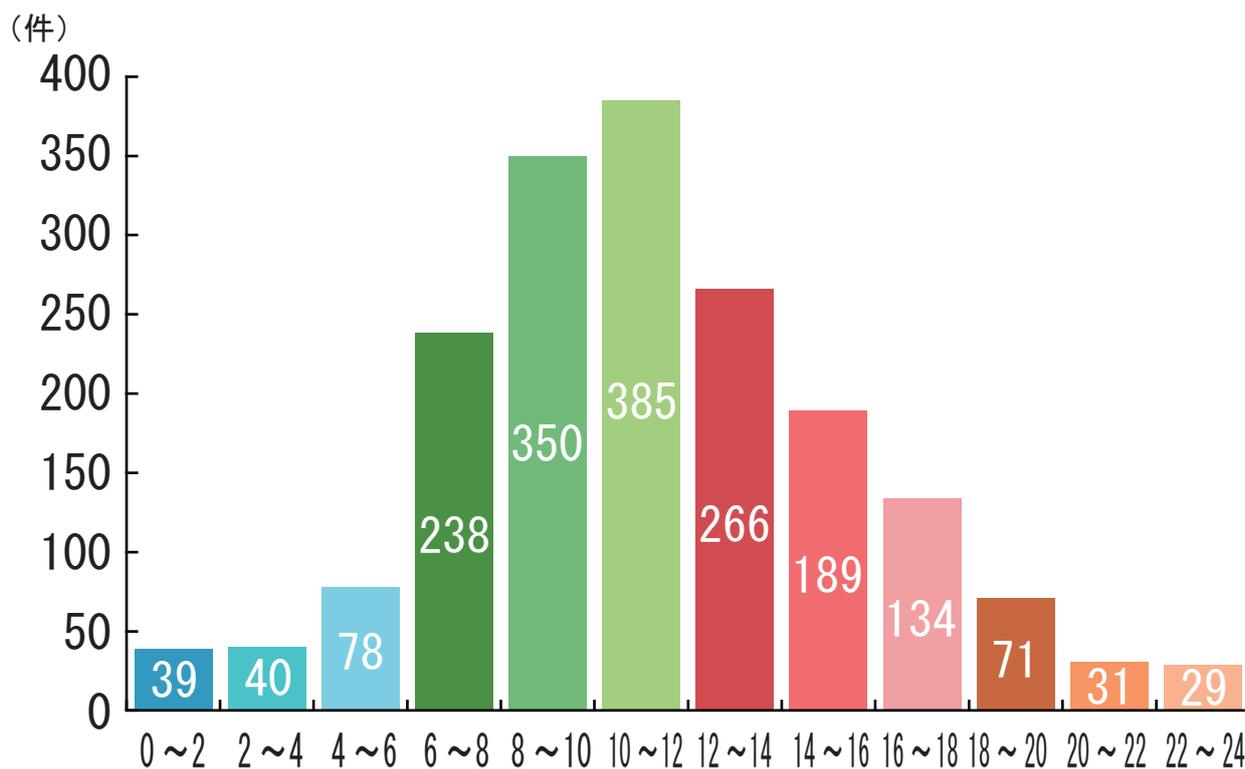
(4) 道路形状別事故発生件数 (2023年度)

道路形状別では、交通事故防止重点項目に掲げている構内で前年度比で10.0%(65件)、交差点及びその付近で前年度比で16.3%(60件)増加しました。



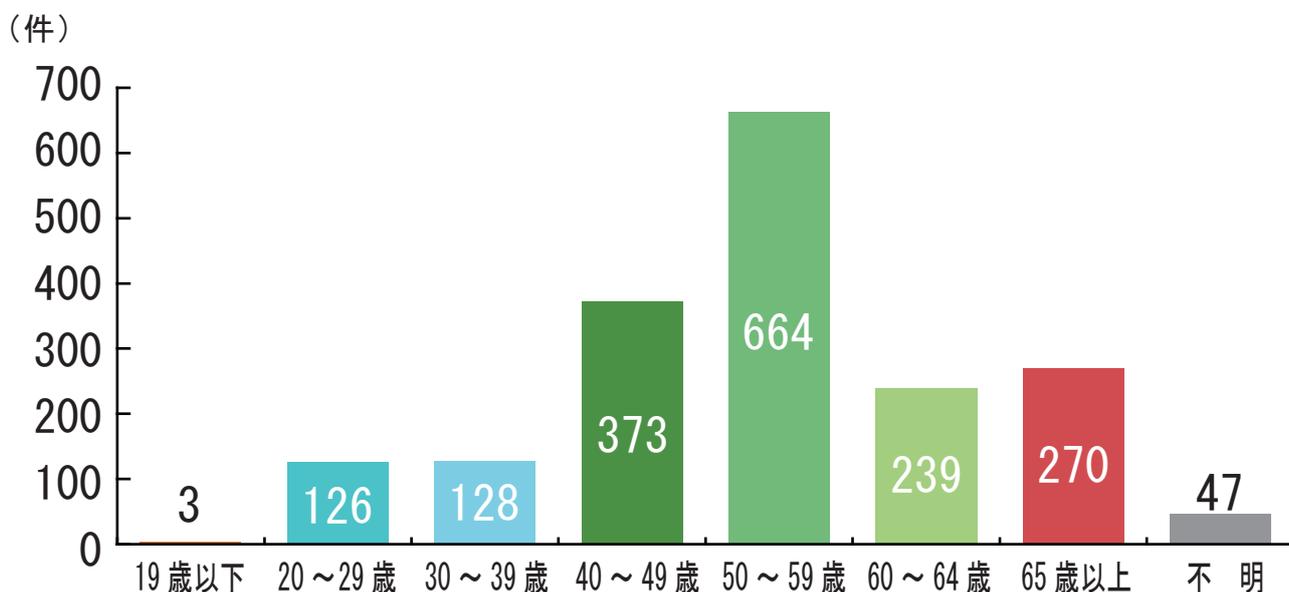
(5) 発生時間帯別事故発生件数 (2023年度)

発生時間帯別では、8時から12時までの時間帯が多く、全体の39.7%を占めており、特に10時から12時の時間帯に最も多く発生しています。また、6時から8時までの時間帯では、前年度比31.5%(57件)増加しました。



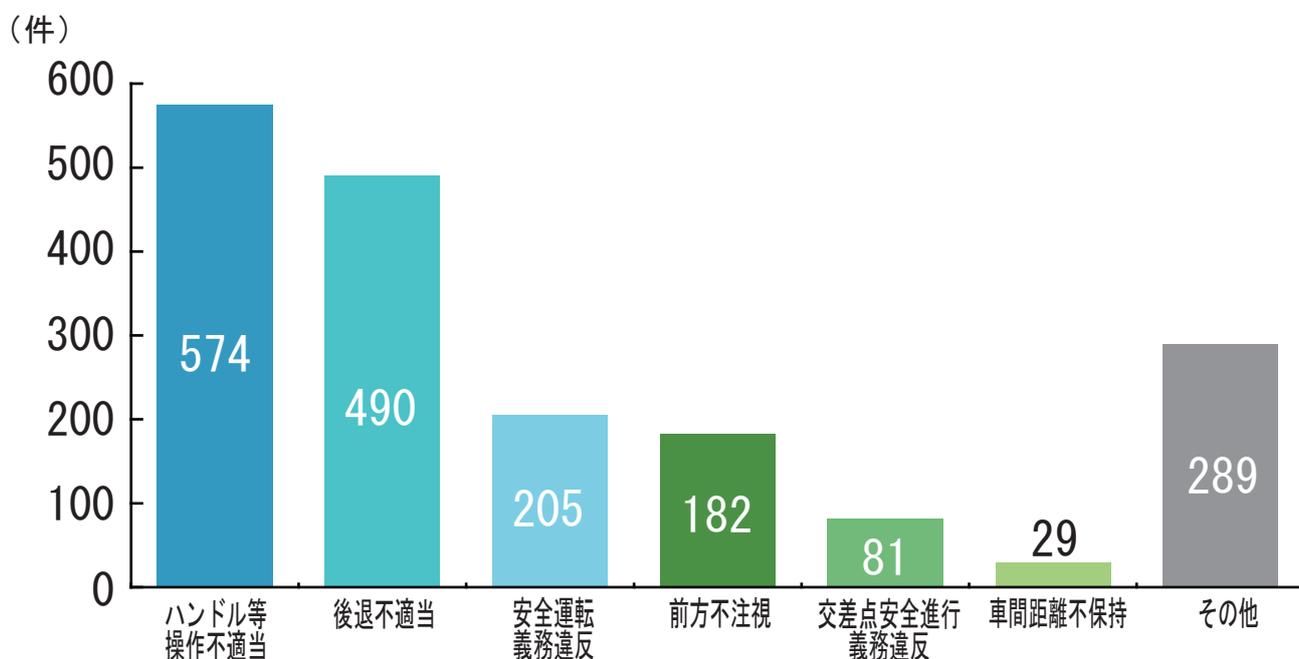
(6) 運転者年齢層別事故発生件数 (2023年度)

運転者年齢層別では、50歳代が664件と最も多く、全体の35.9%を占めています。また、運転者の高齢化が進み、60歳以上が前年度比18.1% (78件) 増加しました。



(7) 原因別事故発生件数 (2023年度)

原因別では、ハンドル等操作不適當が最も多く、次いで後退不適當の順に多く発生しています。



道路交通法では

- ◇安全運転義務違反とは、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。
- ◇交差点安全進行義務違反とは、交差点を通過する際、交差点の通行車両及び横断歩行者に注意し、安全な速度と方法で進行しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。

2. 共済種目別事故発生状況

(1) 共済種目別事故発生件数・事故率

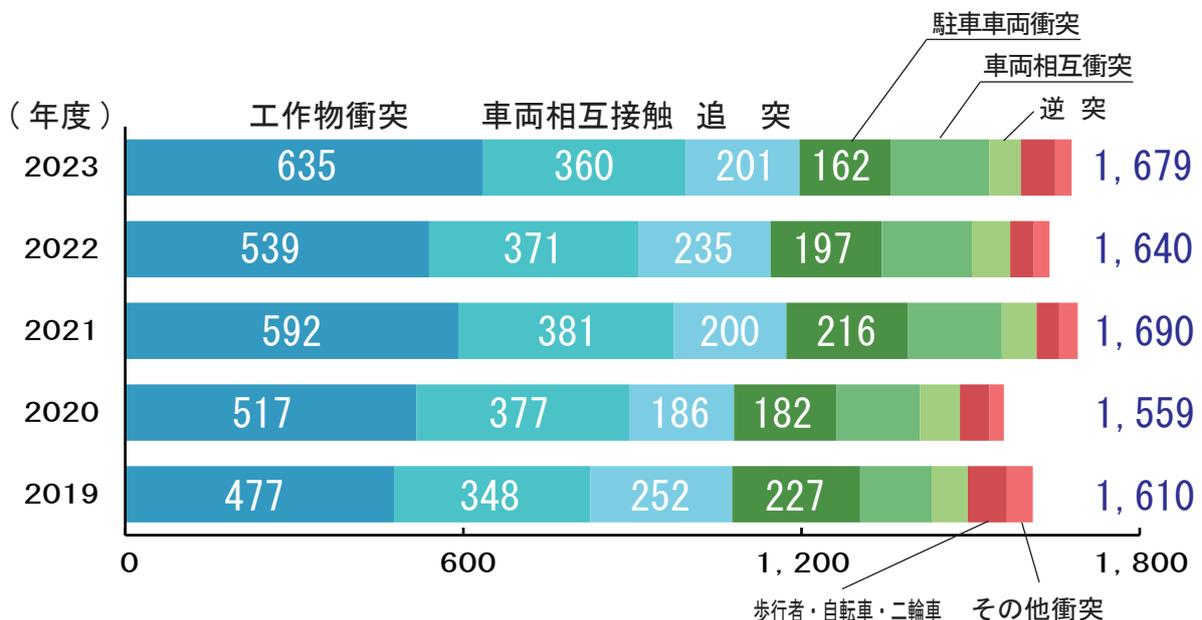
共済種目別	年度	2019	2020	2021	2022	2023
対人	発生件数(件)	381	316	332	343	347
	死者数(人)	5	1	1	1	4
	傷者数(人)	473	384	440	442	447
	事故率(件)	2.25	1.85	1.96	2.06	2.08
搭傷	発生件数(件)	5	6	0	1	3
	事故率(件)	0.08	0.09	0	0.02	0.05
対物	発生件数(件)	1,610	1,559	1,690	1,640	1,679
	事故率(件)	11.87	11.18	12.11	11.89	12.09
車両	発生件数(件)	112	102	113	111	124
	事故率(件)	5.61	4.66	5.04	4.82	5.36

(2) 対人共済被害者数(死亡・後遺障害・傷害)

区分	年度	2019	2020	2021	2022	2023
① 死亡(人)		5	1	1	1	4
② 後遺障害(人)		28	29	20	39	22
③ 傷害(人)		445	355	420	403	425
④ 合計(人)		478	385	441	443	451
⑤ ①+②(人)		33	30	21	40	26
⑥ ⑤の④に対する割合(%)		6.9	7.8	4.8	9.0	5.8

(3) 対物共済類型別事故発生件数

対物事故による工作物衝突は過去5年間で最も多く、前年度比で17.8%(96件)増加しました。駐車車両衝突は過去5年間で最も少なく、前年度比で17.8%(35件)減少しました。

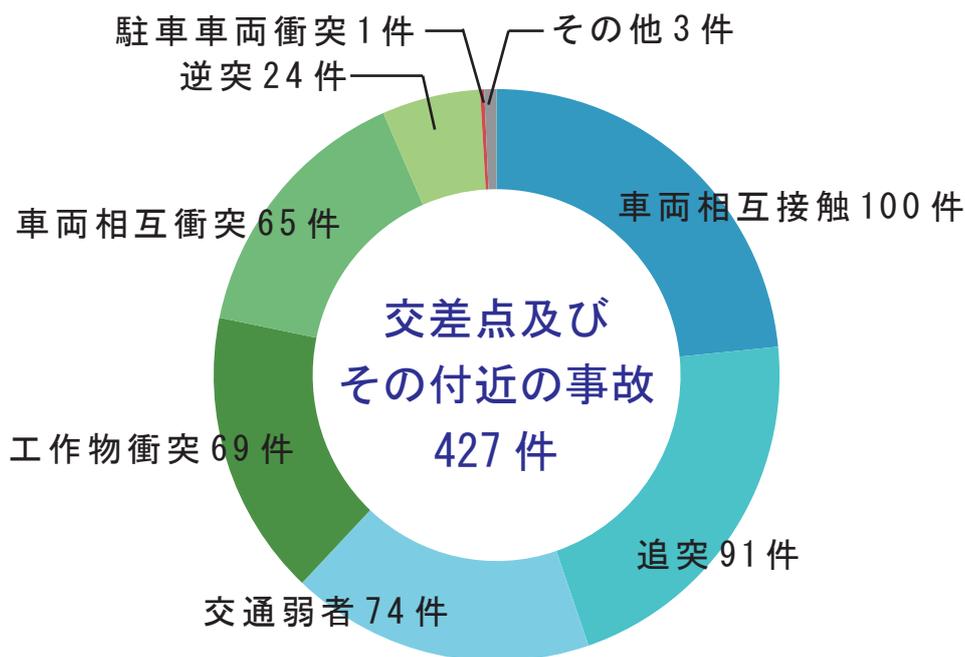


3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況（2023年度）

(1) 交差点事故の実態

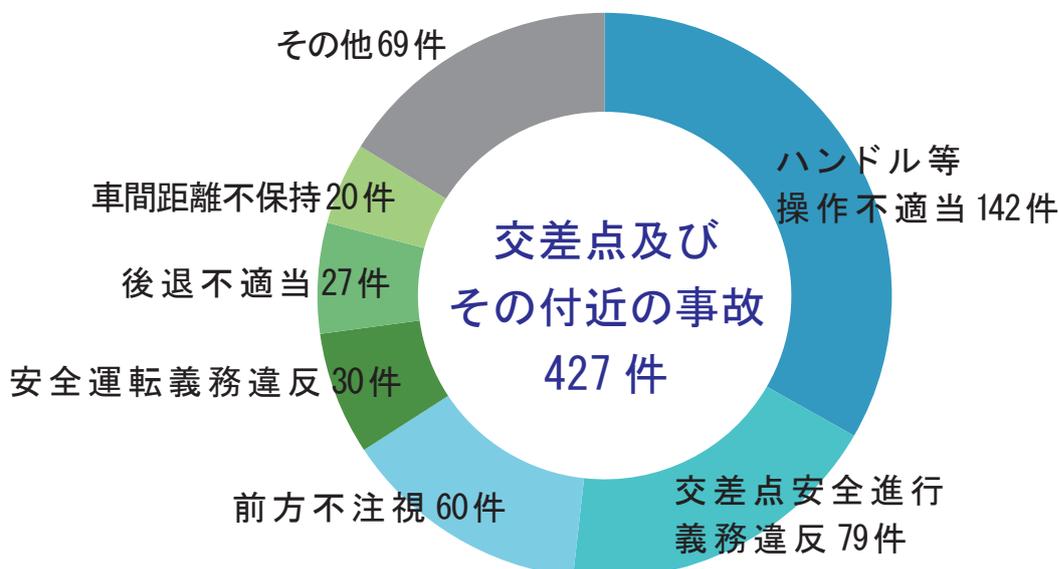
① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）

交差点事故の類型別では、依然として車両相互接触が発生件数全体の23.4%と最も多くなっています。また、高額賠償事案につながりやすい「交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）」（以下、「交通弱者」といいます。）は、前年度比で39.6%(21件)増加しています。



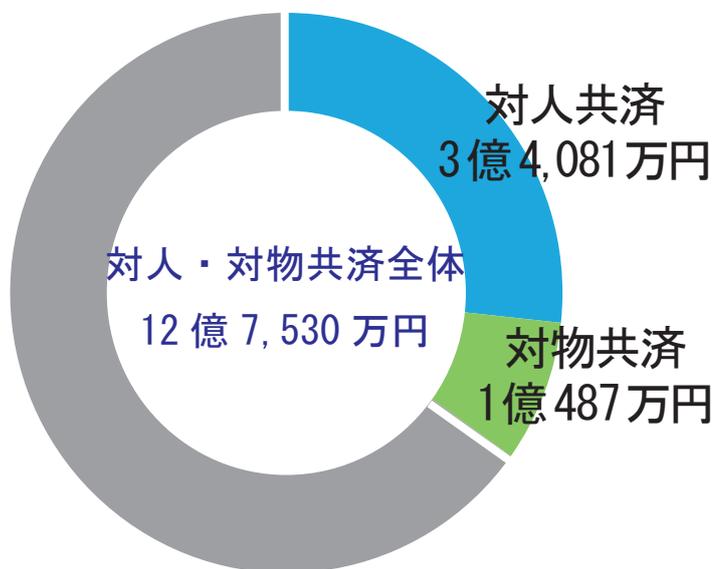
② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）

交差点事故の原因別では、ハンドル等操作不適當が前年度比で29.1%（32件）増加し、原因別全体の33.3%を占めています。



③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金

2023年度の交差点及びその付近の事故による支払共済金は、対人共済3億4,081万円、対物共済は1億487万円、総額で4億4,568万円となり、支払共済金全体の34.9%にあたります。（支払共済金全体：12億7,530万円）



交差点事故防止のワンポイントアドバイス

交差点での事故原因は、ハンドル等操作不適當、交差点安全進行義務違反が主な原因となっています。車・人が行き交う交差点では、コメンタリー運転を実践して確実な安全確認を行うことが大切です。

1. 交差点の通行方法

交差点およびその付近は、歩行者、自転車などが行き交う場所ですので、首や上体を動かし周囲の確認をよく行い、できる限り安全な速度と方法で進行し、「かもしれない運転」で交差点事故の防止に努めましょう。

2. 一時停止と安全確認

どんなに通りに慣れている交差点であっても「思い込み」をせず、必ず停止線で一時停止をし、周囲をよく視て状況に応じた多段階停止をし、十分な安全確認を徹底しましょう。

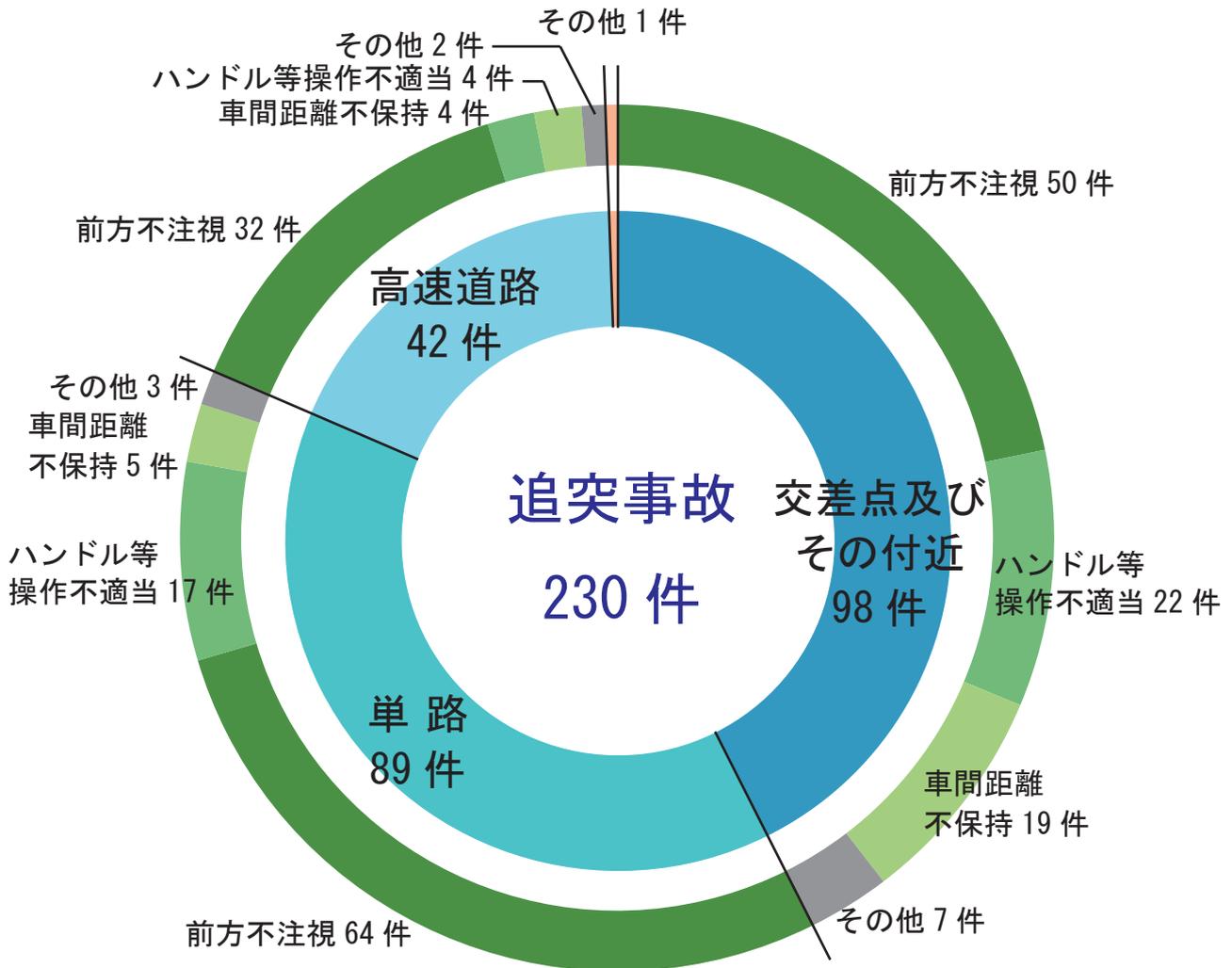
3. コメンタリー運転の実践

交差点通行時は、「前方 よし」「右 よし」「左 よし」などと声に出して、歩行者や自転車などの有無をしっかりと確認しましょう。

(2) 追突事故の実態

① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）

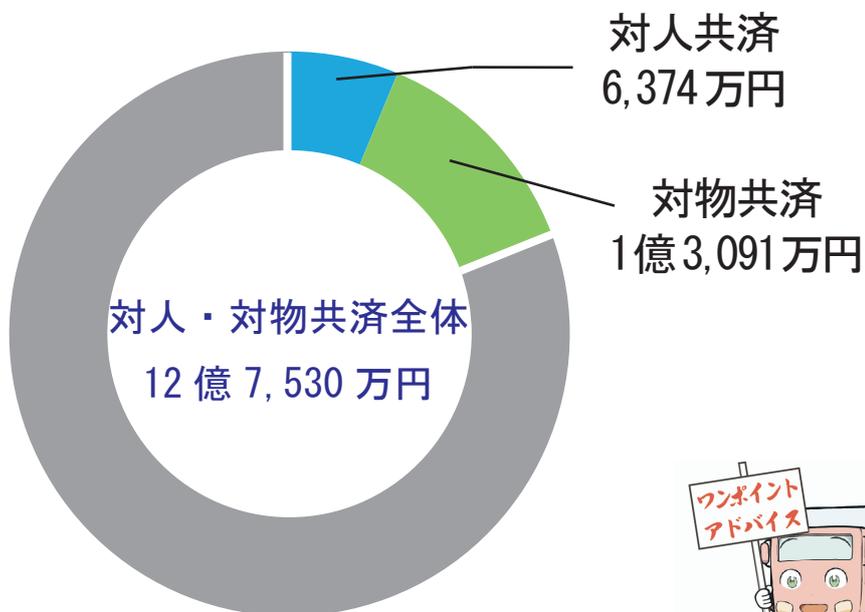
追突事故の主な原因は前方不注視で、すべての道路形状で半数以上を占めています。



※追突事故230件には、交通弱者である二輪車への追突9件を含みます。

② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金

2023年度の追突事故による支払共済金は、対人共済6,374万円、対物共済1億3,091万円、総額で1億9,465万円となり、支払共済金全体の15.3%にあたります。（支払共済金全体：12億7,530万円）



追突事故防止のワンポイントアドバイス

追突事故の原因のひとつとして、脇見等により前方車両の発見が遅れ、気が付いてからブレーキを踏んだが間に合わずに追突するケースがあります。運転中は運転に集中し、前方を広く「よく見る」ことが大切です。

1. 速度に応じた車間距離の確保

トラックやバスなどの大型車の直後を走行するとき、急いでいると車間距離をつめ過ぎて前方の道路状況が見えなくなり、事故への危険性が高まります。急いでいる時こそ焦らず慎重な運転を心掛け、前方の状況を把握するためにも、速度に応じた車間距離を確保し、追突事故を防ぎましょう。

2. 「よく見て」追突事故の防止

高速道路での追突事故は、渋滞中に多発しているのが実態です。スピードが緩むと、気も緩みがちになります。渋滞中でも決して油断をせず、前方への注意を怠らないように努めましょう。

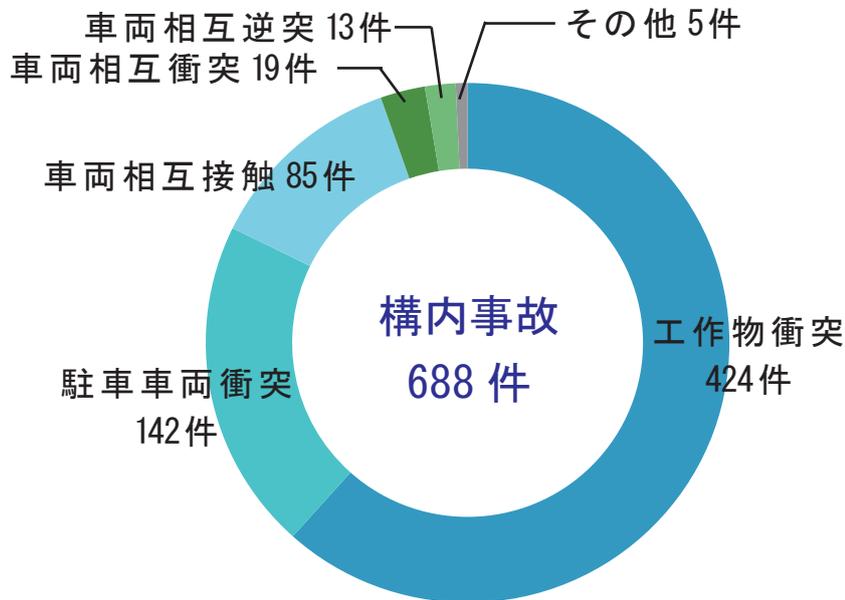
3. コメンタリー運転の実践

「車間距離 注意」「前車 停止」などと声に出して、自分の目と耳と声での安全確認を心掛けましょう。

(3) 構内事故の実態 (対物共済)

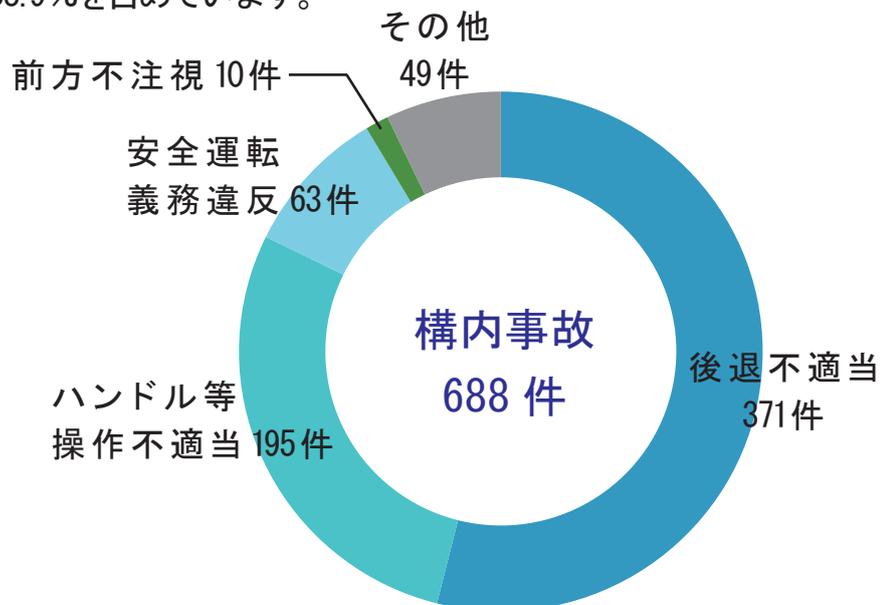
① 構内事故の類型別事故状況

構内事故の類型別では、シャッター等による高額賠償事故を含む工作物への衝突事故が424件発生と最も多く、構内事故全体の61.6%を占めています。



② 構内事故の原因別事故状況

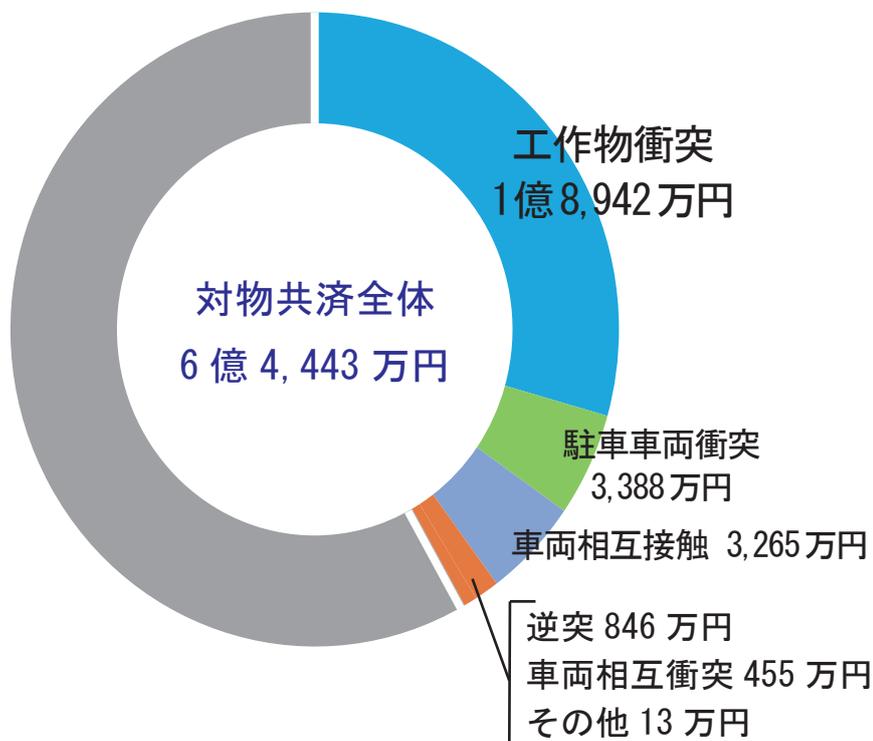
構内事故の事故原因別では、後方に対する安全確認が不十分な後退不適當が371件と53.9%を占めています。



※安全運転義務違反には、構内を移動する際にウイングや観音扉の閉め忘れにより、構内施設や他車両に衝突した事故等が含まれます。

③ 構内事故の支払共済金

2023年度の構内事故による支払共済金は、総額で2億6,909万円となり、そのうち工作物への衝突事故が1億8,942万円と構内事故による支払共済金の約70.4%を占めています。また、構内事故による支払共済金総額は、対物共済全体の41.8%にあたります。（対物共済金全体：6億4,443万円）



構内事故防止のワンポイントアドバイス

構内での事故の要因として「いつもの構内だから大丈夫といった気の緩み」が挙げられます。慣れた構内ほど油断せず、警戒心を高めることが大切です。

1. 慣れた構内でも油断しない

構内では上方の庇やシャッター、配管、看板等にも注意を払うため、下車して安全を確認し、意識的に警戒心を高めるようにしましょう。

2. 後退時の安全確認の徹底

トラックの後方はほとんどが死角です。後方が見えない状況で安全に後退するためには、いったん下車して自分の目で周囲の安全確認をしましょう。

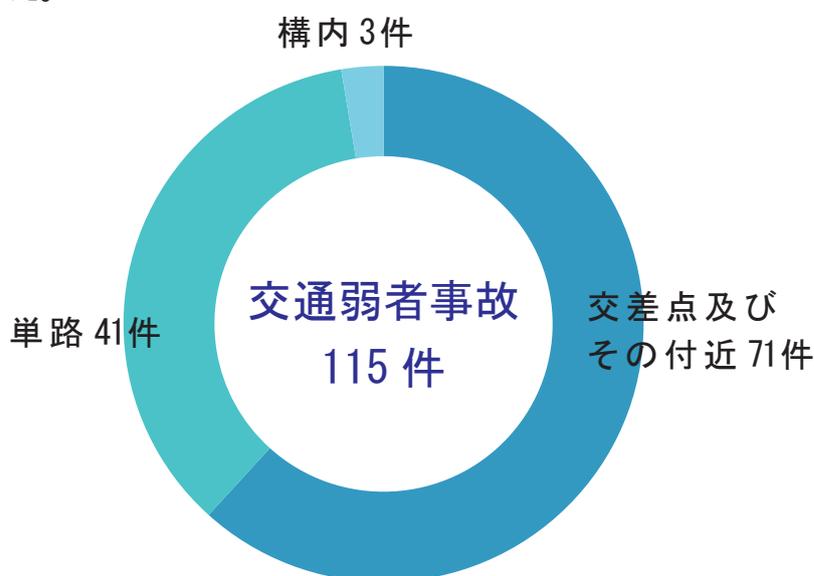
3. コメンタリー運転の実践

必ず下車確認「後方 よし」「上方 よし」などと声に出して安全確認をし、慣れや油断からの事故を防止しましょう。

(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態 (対人共済)

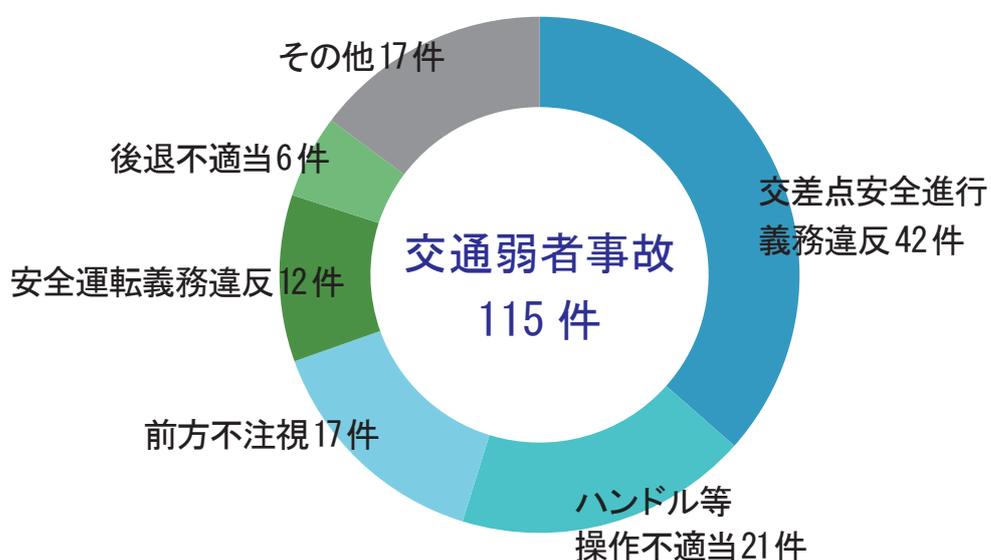
① 交通弱者との道路形状別事故状況

交通弱者を被害者とする事故は、前年度比30.7% (27件) 増加しました。交通弱者事故115件のうち、61.7% (71件) が交差点及びその付近で発生し、前年度比39.2% (20件) 増加しました。



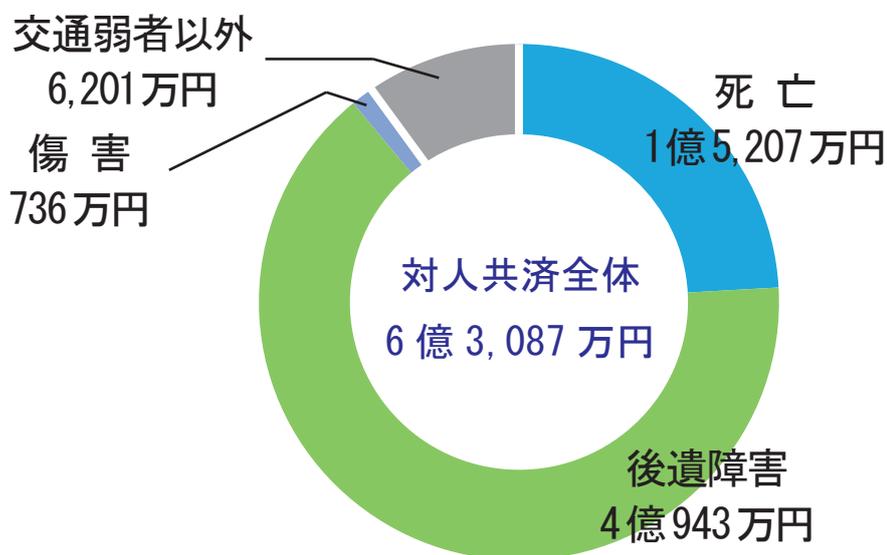
② 交通弱者との原因別事故状況

交通弱者との事故原因では、交差点を通過する際の安全確認を怠ったことによる交差点安全進行義務違反が42件と多く、ハンドル等操作不適當21件を合わせると全体の54.8% (63件) を占めています。



③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金

2023年度の交通弱者に対する支払共済金は死亡事故に対して1億5,207万円、後遺障害に対して4億943万円、傷害に対して736万円、対人共済全体の支払額に占める割合は90.2%となっています。（対人共済金全体：6億3,087万円）



④ 交通弱者年齢層と事故発生場所

交通弱者を被害者とする事故115件で、被害者数は116人となっています。発生場所では交差点及びその付近が62.1%を占め、その中で被害者年齢層別では65歳以上が最も多くなっています。

(人)

年 齢	場 所	交差点及びその付近	単 路	構 内	高速道路	合 計
6歳以下		1				1
7～12歳		4				4
13～15歳		1				1
16～19歳		4	6			10
20～29歳		5	7			12
30～39歳		15	7			22
40～49歳		10	7	2		19
50～59歳		12	9	1		22
60～64歳		3				3
65歳以上		17	5			22
合 計		72	41	3		116

⑤ 交通弱者被害者類型・態様別

被害者類型・態様別では、自転車が57件と最も多く発生し、全体に占める割合も49.1%となっています。

(人)

区 分 被害者態様	交 通 弱 者			合 計
	歩行者	自転車	二輪車	
死 亡	2	1	1	4
後遺障害	3	5	7	15
傷 害	17	51	29	97
合 計	22	57	37	116



交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス

交通弱者との事故は、「交差点安全進行義務違反」「ハンドル等操作不相当」「安全運転義務違反」が主な原因で発生しています。

1. 周囲の安全確認の徹底

交差点を左折する時は、左後方を自分の目で直に確認することができないため、ミラーに頼らざるを得ません。しかしながら、ミラーには死角があり、見落としや見間違いのケースが考えられますので、最徐行や一時停止をして安全確認をするなど、慎重な運転を心掛けましょう。

2. 生活道路の横断歩行者に注意

人通りの少ない生活道路では、横断歩道の無い場所での横断や駐車車両のある道路において、「歩行者が横断してくるかもしれない」と危険意識を持って運転しましょう。特に高齢者や子どもの歩行者を発見したら、思いやりの気持ちを持って速度を落とし、最徐行または一時停止を心がけましょう。

3. コメンタリー運転の実践

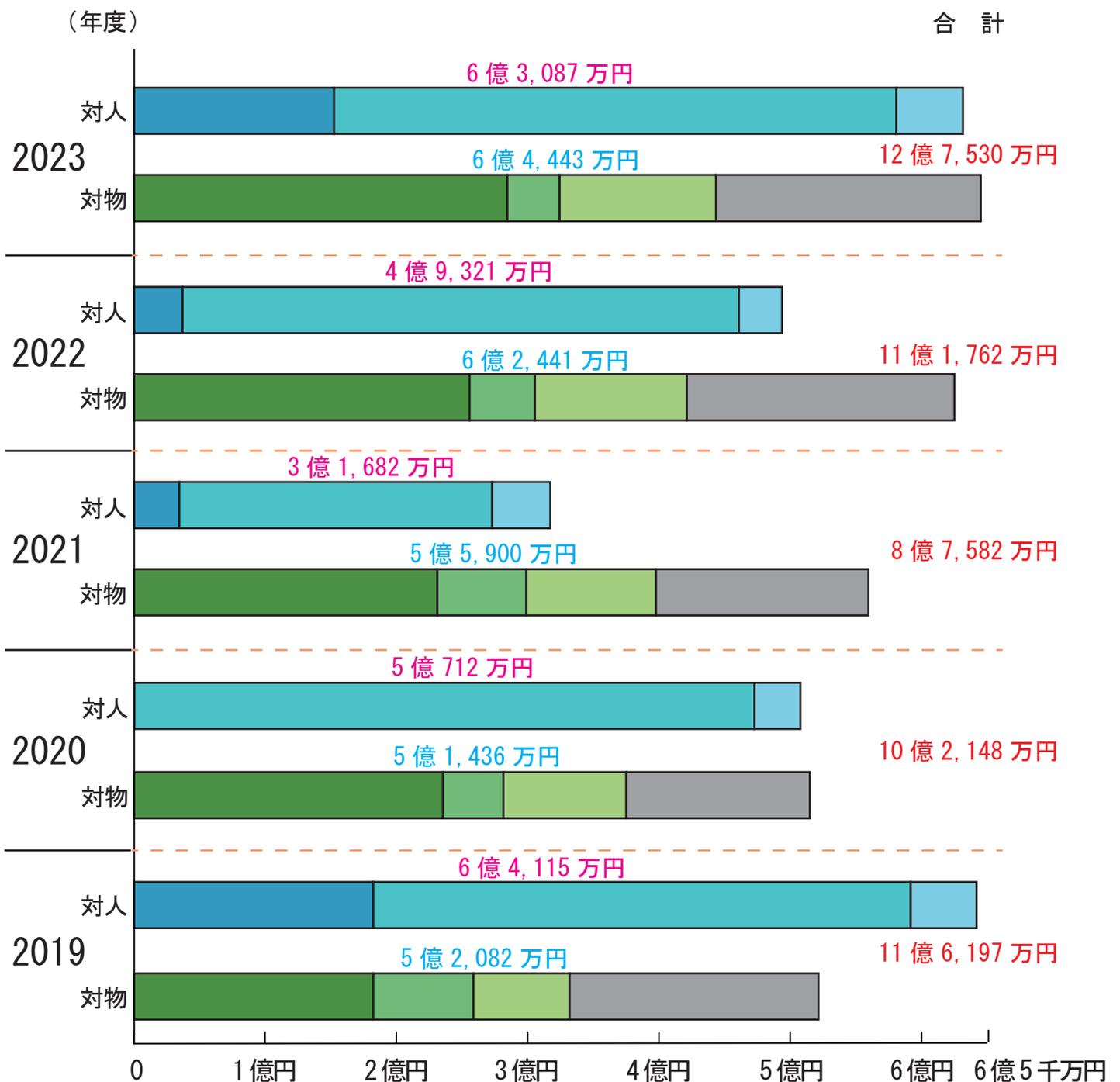
「歩行者 注意」「自転車 注意」「二輪車 注意」などと声に出して、危険と思われる対象を正確に把握し、認知ミスを防ぎましょう。

4. 過去5年間に於ける発生事故に係る支払共済金

2023年度の対人共済では後遺障害、対物共済では工作物衝突による事故が高額賠償事案となり、収益に影響を及ぼし、対人・対物共済の支払共済金は12億7,530万円で、前年度と比較して1億5,768万円増加しています。

対人共済： ■ 死亡 ■ 後遺障害 ■ 傷害

対物共済： ■ 工作物衝突 ■ 駐車車両衝突 ■ 車両相互接触 ■ その他

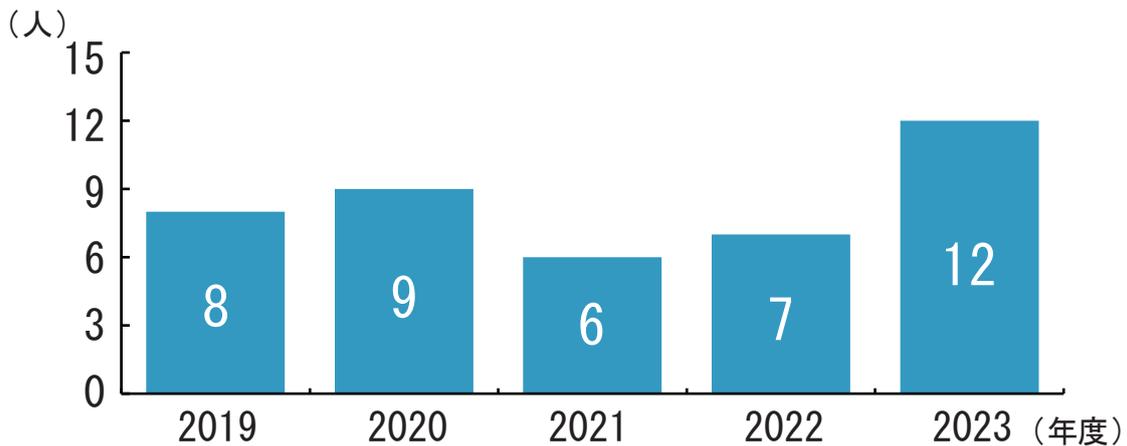


5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生状況

(1) 対人共済

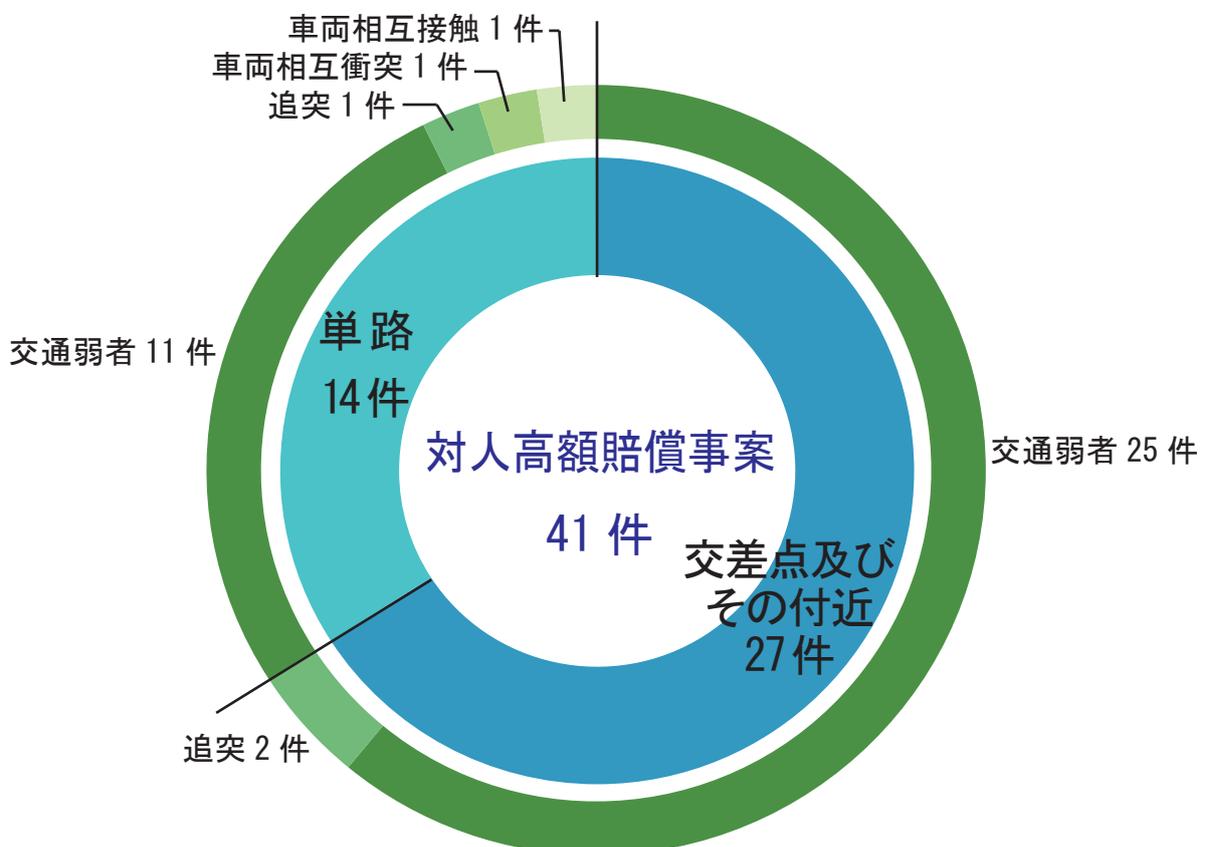
① 高額賠償事案(1,000万円以上)の事故発生状況

2023年度における高額賠償事案の被害者人数は12人となり、過去5年間で最も多い人数となりました。



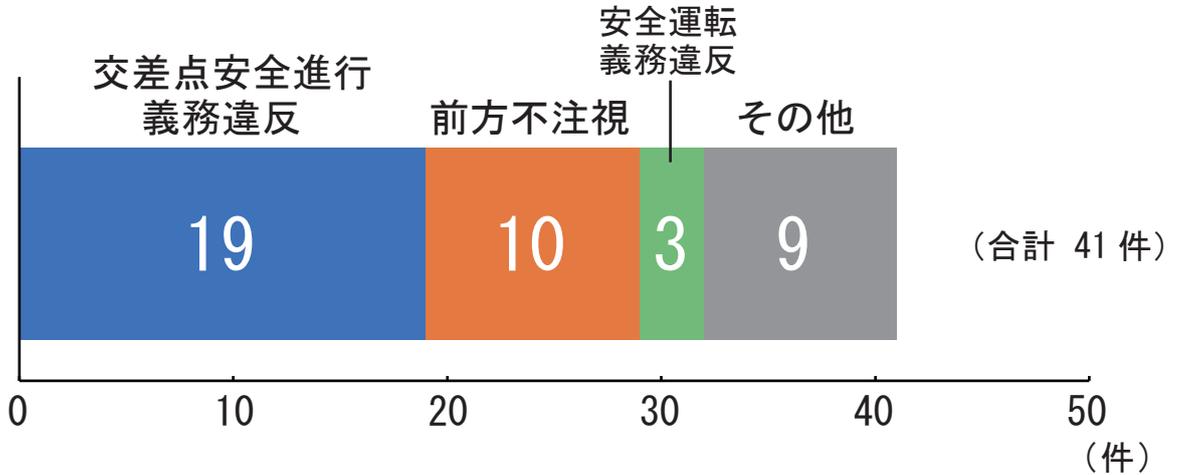
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、交差点及びその付近で27件、単路で14件事故が発生しており、その多くは交通弱者との事故が占めています。



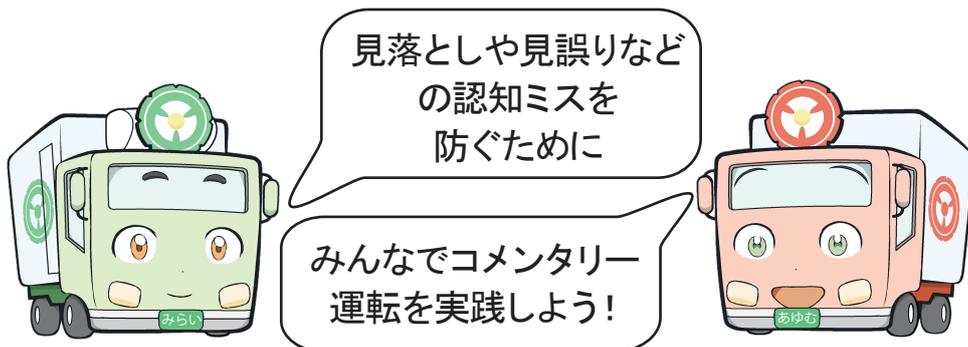
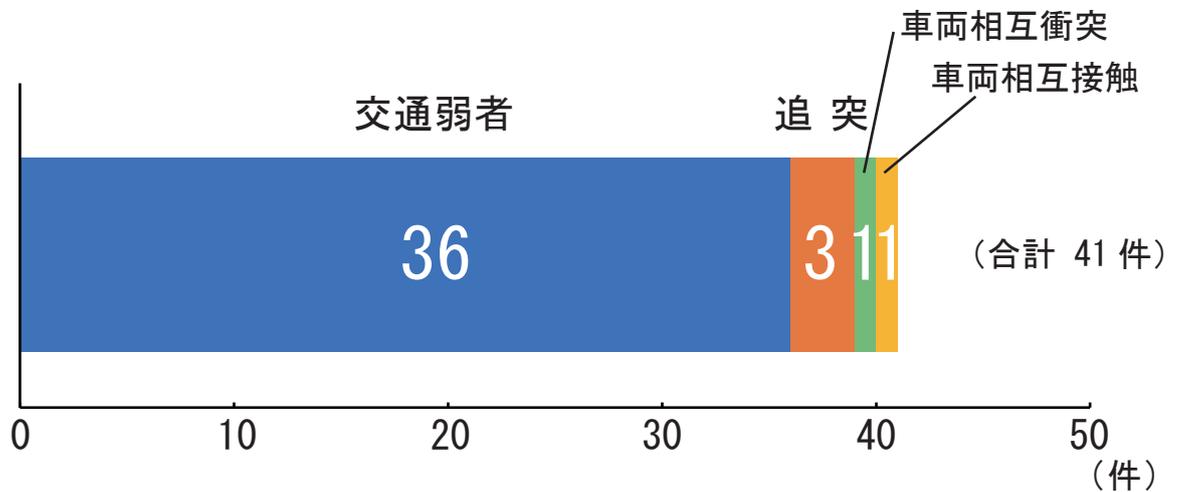
③ 原因別の事故発生状況

原因別では、交差点及びその付近での交差点安全進行義務違反による事故が19件（歩行者8件、自転車8件、二輪車3件）と最も多く、全体の46.3%となっています。



④ 類型別の事故発生状況

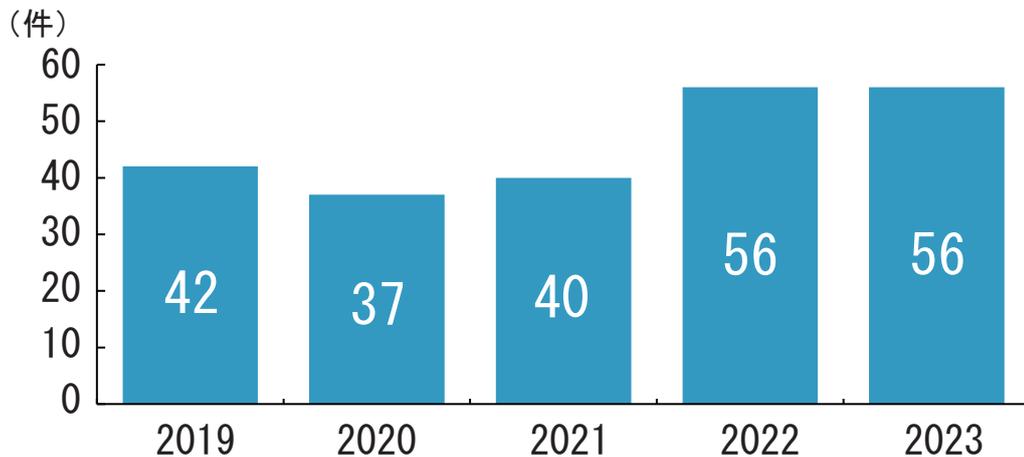
類型別では、交通弱者との事故が36件と最も多く、全体の87.8%を占めています。



(2) 対物共済

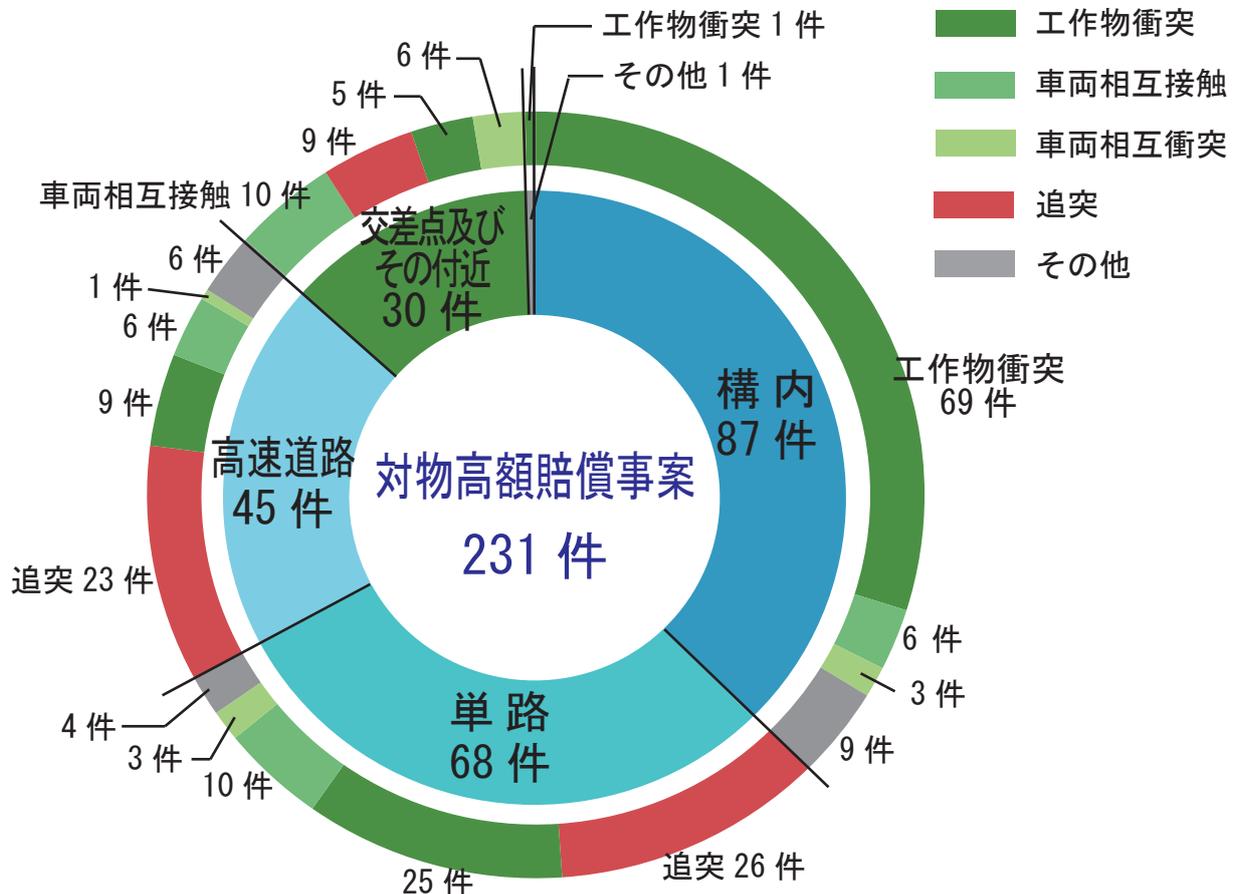
① 高額賠償事案（200万円以上）の事故発生状況

過去5年間における高額賠償事案は231件で、2021年度と2022年度を比較すると40%(16件)増加し、2023年度も前年度と同じく56件発生しました。



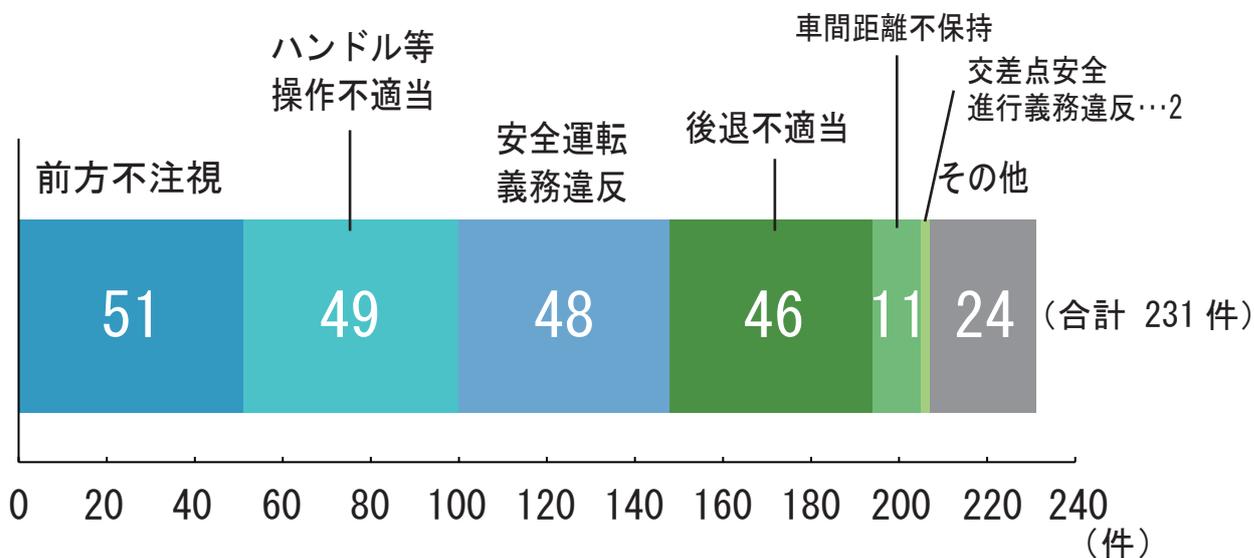
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、構内で発生した事故が87件と最も多く、そのうち工作物との衝突が79.3%(69件)と高い割合を占めています。



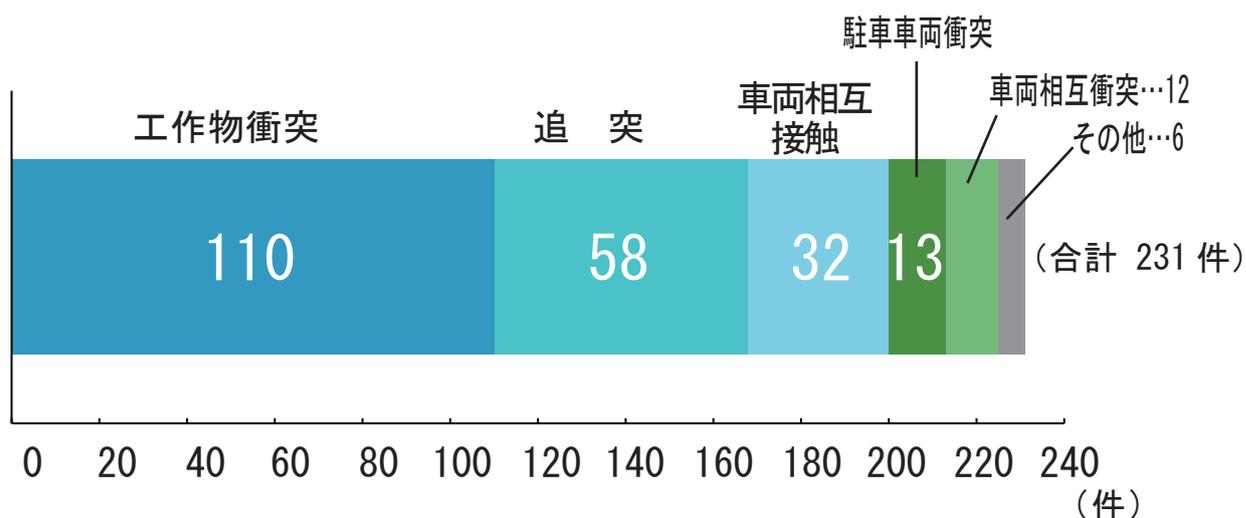
③ 原因別の事故発生状況

原因別では、前方不注視による事故が51件と最も多く、次いでハンドル等操作不適當が多く発生しています。



④ 類型別の事故発生状況

類型別では、工作物衝突が110件と最も多く発生しており、高額賠償事案となる傾向にあります。



6. 過去5年間における運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）

(1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況

道路形状別の事故では、構内での事故が50歳～59歳で1,145件と最も多く発生しており、構内事故全体の34.4%を占めています。

(件)

区分	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不明	合計
交差点及びその付近	8	162	159	534	680	217	254	3	2,017
単路	11	226	274	675	909	319	367	14	2,795
高速道路	1	88	87	204	275	98	72	2	827
構内	5	174	294	792	1,145	388	470	60	3,328
その他		1	1	7	7	1	4		21
合計	25	651	815	2,212	3,016	1,023	1,167	79	8,988

(2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況

類型別の事故では、工作物衝突が40歳～59歳で1,698件と最も多く発生しており、工作物衝突全体の58.6%を占めています。

(件)

事故類型	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不明	合計
車両相互	追突	4	136	119	293	373	122	157	1,204
	逆突	1	23	27	79	103	43	56	333
	接触	5	150	157	501	617	223	228	1,893
	その他衝突	3	54	85	240	325	95	89	903
車両単独	駐車車両衝突	4	64	86	199	338	127	170	1,000
	工作物衝突	6	175	272	704	994	327	382	2,896
	その他		9	21	53	65	12	20	186
歩行者・自転車・二輪車	2	40	48	143	201	74	65		573
合計	25	651	815	2,212	3,016	1,023	1,167	79	8,988

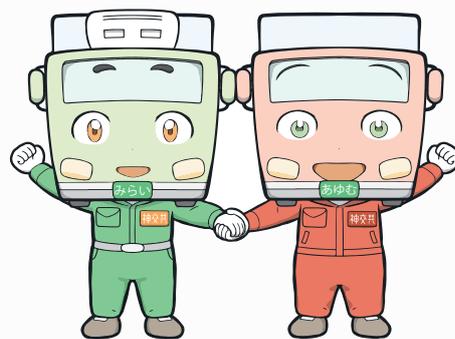
(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況

時間帯別の事故では、8時～12時の時間帯で最も多く発生しています。運転者の人数が多い40歳～59歳の年齢層では、40歳～49歳は8時～10時の時間帯で444件、50歳～59歳は10時～12時の時間帯で618件をピークに事故が発生しています。

(件)

年 齢 時間帯	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不 明	合 計
0～2		7	6	43	50	18	15	5	144
2～4		9	10	47	65	22	19	2	174
4～6		30	29	103	137	43	50	2	394
6～8	2	72	98	271	364	122	133	9	1,071
8～10	6	138	157	444	594	195	228	14	1,776
10～12	5	125	209	425	618	189	252	16	1,839
12～14	5	96	95	284	421	164	190	12	1,267
14～16	3	83	87	239	329	130	146	6	1,023
16～18	3	48	64	158	223	65	78	5	644
18～20		23	31	98	110	40	30	3	335
20～22	1	10	19	55	59	25	15	1	185
22～24		10	10	45	46	10	11	4	136
合 計	25	651	815	2,212	3,016	1,023	1,167	79	8,988

事故の多い時間帯を
理解しよう!



午前中の運行に
注意しよう!



高齢運転者への事故防止のワンポイントアドバイス

高齢運転者は一般的に、加齢に伴い視力や聴力などの身体機能が低下すると同時に、危険を認知し回避行動を行うまでの反応時間も遅延する傾向があります。交通量が多い場面では、一瞬の迷いや判断の誤り（ヒューマンエラー）が、重大事故に繋がる恐れがあります。

65歳以上を対象とした適齢診断の結果をもとに、社内での安全運転指導をお願いいたします。

1. 「注意力」「集中力」の維持

運転中にセンターラインを踏んだら要注意。「注意力」「集中力」が低下している可能性があります。悪化すれば、対向車との衝突事故を起こす可能性があるため、再度、「注意力」「集中力」への意識を高め安全運転に努めましょう。

2. 健康管理の徹底

自らの健康状態を正しく認識し、疲労を蓄積しないよう心掛けるとともに、食事・運動・休養など生活習慣に気を配り、日頃の体調管理に留意しましょう。

3. 過信せず安全確認をしっかりと

慣れた道でも過信せず、「ここは大丈夫だろう」から「ここは危ないかもしれない」といった警戒心を高めるように意識し、一時停止場所ではしっかり止まって安全確認をするようにしましょう。

4. コメンタリー運転の実践

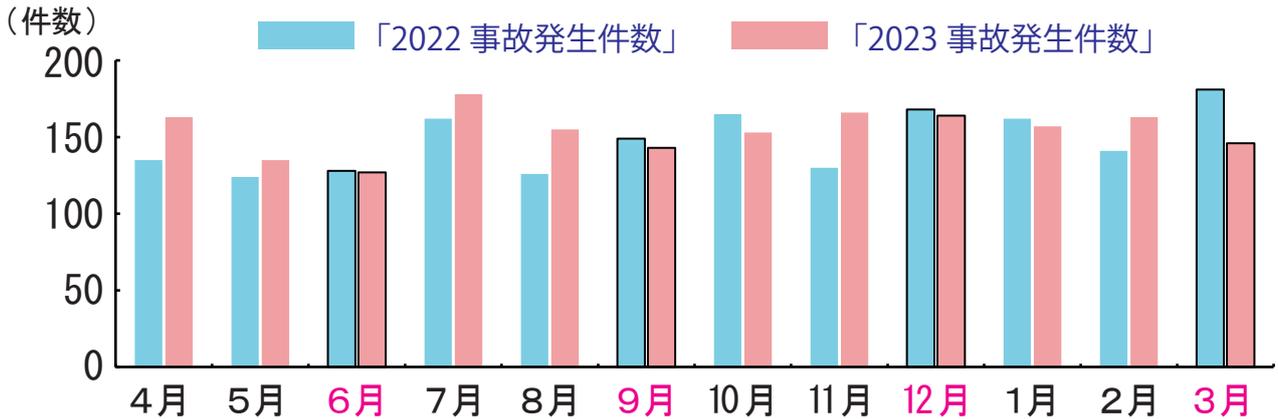
加齢に伴い、危険の発見が遅れがちになります。目に見える危険や隠れている危険を積極的に見つけ出す意識を常に持ち、コメンタリー運転を実践し、周囲への注意喚起を徹底しましょう。

7. 2023年度交通事故防止強化月の事故発生状況

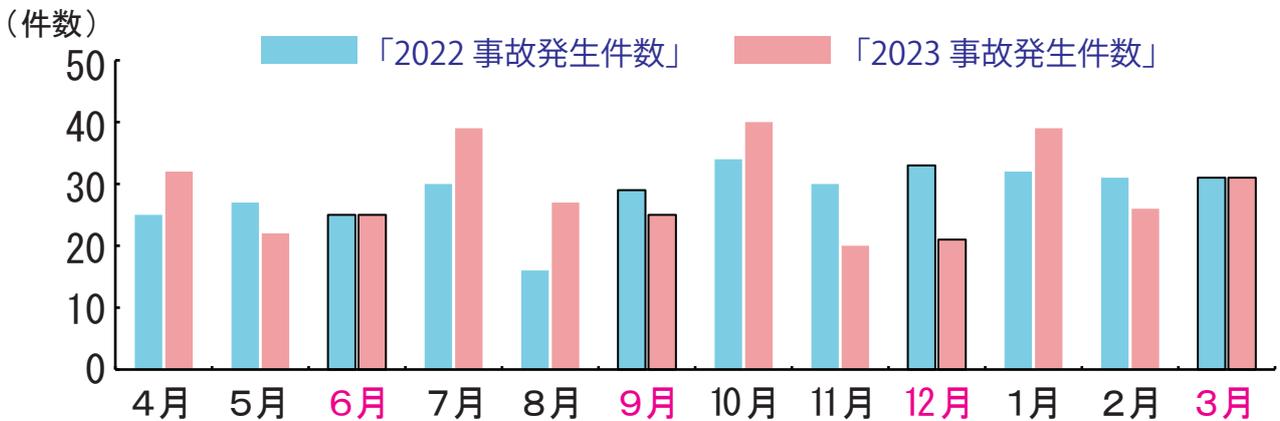
2023年度においても6月、9月、12月、3月の4か月を交通事故防止強化月に設定し、強化月ポスターの配付や安全情報の配信など、事故防止への注意喚起に努めました。

(1) 月別事故発生件数

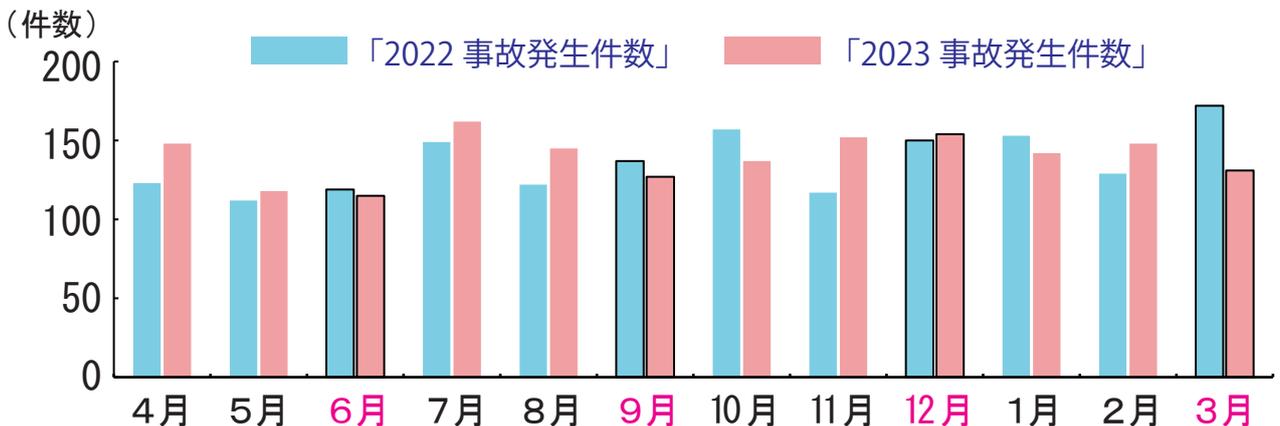
① 全事故



② 対人共済



③ 対物共済



8. 2023年度交通事故防止強化月の結果について

(1) 重点項目別事故発生件数

2023年度においても、交通事故防止重点項目「交差点事故の根絶」「追突事故の根絶」「構内事故の根絶」を掲げ、交通事故防止に向けた取り組みを行いました。強化月については、12月の構内事故発生件数を除き、すべての強化月で月平均（強化月除く）よりも少ない結果となりました。

(件)

重点項目	区分	6月	9月	12月	3月	月平均 (強化月除く)
交差点事故の根絶		30	29	35	36	37.1
追突事故の根絶		18	15	14	17	19.6
構内事故の根絶		59	57	63	49	61.1

(2) 交通事故防止強化月ポスターの作成

強化月のより一層の事故減少に取り組むため強化月ポスターを作成し、組合員に配付しました。



9. 交協連傘下15組合の2023年度事故発生状況

交協連（全国トラック交通共済協同組合連合会）は、全国15のトラック交通共済協同組合を会員とする団体です。

(1) 事故発生状況（対人・対物事故）

区分		神奈川 (件)	15組合合計 (件)	15組合平均 (件)	神奈川の割合 (%)
対人	発生件数(件)	347	4,550	303	7.6
	死者数(人)	4	71	4.7	5.6
	傷者数(人)	447	5,690	379	7.9
	100両当りの事故件数	2.09	—	1.48	0.61(平均との差)
対物	発生件数(件)	1,679	27,118	1,808	6.2
	100両当りの事故件数	12.13	—	9.57	2.56(平均との差)

(2) 原因別事故発生状況（対人事故）

区分	神奈川 (件)	神奈川の構成比 (%)	15組合合計 (件)	15組合の構成比 (%)
前方不注視	120	34.6	1,912	42.0
車間距離不保持	16	4.7	315	6.9
後退不相当	24	6.9	236	5.2
ハンドル等操作不相当	73	21.0	606	13.3
徐行違反			6	0.13
左折違反			134	2.9
右折違反	1	0.3	113	2.5
一時停止違反	1	0.3	22	0.5
最高速度違反			1	0.02
優先通行違反			7	0.2
追い越し違反			22	0.5
横断（転回）違反			17	0.4
信号無視	5	1.4	90	2.0
酒酔い・酒気帯び			1	0.02
安全運転義務違反（安全速度）			28	0.6
安全運転義務違反（その他）	29	8.4	660	14.5
交差点安全進行義務違反	48	13.8	260	5.7
不明・その他の違反	30	8.6	120	2.6
合計	347	100	4,550	100

(3) 類型別事故発生状況 (対人事故)

区 分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
類型別		(件)	(%)	(件)	(%)
車 両	追突 (走行中)	29	8.4	368	8.1
	追突 (停止中)	120	34.6	1,618	35.6
	正面衝突	6	1.7	56	1.2
	側面衝突	2	0.6	212	4.7
	接 触	62	17.9	1,166	25.6
	その他	39	11.2	257	5.6
	小 計	258	74.4	3,677	80.8
	(うち 自動二輪・原付)	36	10.4	292	6.4
歩行者		22	6.3	256	5.6
自転車		57	16.4	509	11.2
単独 (その他)		10	2.9	103	2.3
列 車				5	0.1
合 計		347	100	4,550	100

(4) 運転者年齢層別事故発生状況 (対人事故)

区 分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
年 齢		(件)	(%)	(件)	(%)
20 歳未満		1	0.3	33	0.8
20 ~ 24 歳		13	3.7	168	3.7
25 ~ 29 歳		22	6.3	252	5.5
30 ~ 34 歳		11	3.2	200	4.4
35 ~ 39 歳		19	5.5	260	5.7
40 ~ 44 歳		29	8.4	336	7.4
45 ~ 49 歳		41	11.8	533	11.7
50 ~ 54 歳		66	19.0	770	16.9
55 ~ 59 歳		73	21.0	705	15.5
60 ~ 64 歳		30	8.7	494	10.9
65 ~ 69 歳		23	6.6	333	7.3
70 歳以上		19	5.5	466	10.2
合 計		347	100	4,550	100

(引用: 令和5年度 交通共済統計年報データ)



神奈川県自動車交通共済協同組合

〒222-8582

横浜市港北区新横浜二丁目 13 番地 4

TEL. 045-475-2134 FAX. 045-475-2144

HP : <https://shinkokyo.or.jp>

2024 年 9 月 30 日発行